

施工事例紹介vol.6

くみやま岡本病院
整備事業

夏原が携わった現場の裏側をご紹介いただくこのコーナー。今回はくみやま岡本病院をクローズアップ！現場で下地職長を務めた服部さんと貼り職長を務めた中村さんに、話を詳しく伺いました。

下地職長を務めました！



はっとり あきら
服部 亜輝良さん

+ 下地職長としての意識

正しく施工できているかしっかり確認

病院をほぼ丸ごと一棟を新築するとあって、普段よりも少し大規模な現場でした。さらに、レントゲン室ならば、放射線が漏れないように下地のピッチを細かくしたり、特殊な壁加工を施したりと、病院内の施設ごとに機能を損なわない下地処理の必要もありました。そのため、正しく施工できているか随時入念に確認するよう気を配りながら進めました。

+ 現場での印象深い出来事

思いがけぬお客さんからのご要望

現場は開院している病院に隣接していました。徐々に新しい病院が形になってくると、通院される皆さんが作業の様子を見に来るようになったのです。すると、「ここはこうしてほしいな」と、現場の作業者に要望を伝える人たちがたくさんいらっしゃいました。その要望の声が増えるにしたがい、対応していくのが少々大変でした。

現場を担当した
職人の皆さんへ

まだまだ未熟な部分が多い私にいろいろ教えてくださいました。現場で存分に力を貸していただき、本当に助かりました。ありがとうございました。また現場と一緒に仕事をする際には、ぜひ力を貸してください。よろしくお願いします！

現場名:くみやま岡本病院整備事業
所在地:京都府久世郡久御山町
佐山西ノ口100番地
工期:2024年4月15日～
2025年1月20日
工事に関わった人数:2500人

貼り職長を務めました！



なかむら きょうへい
中村 恭兵さん

+ 貼り職長としての意識

現場所長と密にコミュニケーションを取る

現場の所長の意向にしっかり対応するため、コミュニケーションを密に取るように気をつけていました。相手の言葉の意図を理解することで、やり直し作業を減らすことにつながるためです。特に今回は、元請けがあまり手がけたことのない病院施設だったため、所長も細かい部分まで気を配っているようでした。その指示をしっかりとヒアリングし、現場の職人の方たちへ正しく伝えるよう努めました。

+ 現場での印象深い出来事

やり直しが多く、工期延長

今までの経験の中で一番やり直し作業の多い現場でした。めくって貼って、めくって貼って……という作業を、数えきれないほど繰り返しました。所長との話し合いを重ねましたが、あまり状況は変わらず……。結果として、工期が1か月延び、職人の皆さんにお願いして土日出勤や残業などで対応していただくことに。大きな現場なだけあり、とても大変でした。

現場を担当した
職人の皆さんへ

ご協力いただき感謝しています。一度作業が終わった場所にもかかわらず、こちらの都合で何度も貼り替えをお願いして申し訳ありませんでした。簡単に剥がせない大変な作業に辛抱強く対応していただき感謝しかありません。ありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。



← 完成した現場の様子

素敵に仕上がりました！



必見!

職長の極意



なかみち つかさ
中道 師さん
職長歴: 7年
現場数: 10 ~ 15件



職長を務める現場での工夫

密なコミュニケーションで一人ひとりの意見を大切に

職長としての役割を全うするには、チーム全体の協力を得ることが不可欠。自分だけの意見を押し通すのではなく、仲間の意見をしっかりと聞くことを心がけています。特に、休憩中の雑談などを通して、メンバーとのコミュニケーションを円滑にし、風通しの良い環境を作ることが重要です。このような日常的なやりとりから、メンバーそれぞれ得意分野や不得意な点を把握し、適した仕事を振り分けるよう工夫。一人ひとりが自分の能力を最大限発揮できるようサポートに努めています！



新人職長時代の苦労

現場で先輩や仲間の協力を仰ぐための姿勢

職長として初めての現場は、工期が非常に厳しく苦労したのを覚えています。人手不足の中、応援人員が到着するまでの間、何とか作業を進めなければならない状況。そのような中、年上の先輩方にも指示を出す立場となり、失礼のないよう細心の注意を払って作業をお願いしていました。大変な状況の中、皆さんの士気を高めるために自ら率先し、一生懸命な姿勢を見せることが重要だと気づかされました。



職長のやりがい

無事に工事が完成したときの達成感

職長という役割は確かに大変ですが、特に工事が無事に完成した瞬間に感じる達成感や安堵感は格別です。例えば、大学のキャンパス新設工事に携わったときは、元請けの方から「またお願いします」と言われたことがあり、その一言が非常に嬉しく、やりがいを感じました。このように、一生懸命取り組む姿勢が評価されると、仲間とともに日頃の難局を乗り越えてきて良かったと感じます。



職長を目指す後輩へ
応援メッセージ

日々の作業と丁寧に 向き合うことを大切に

まず日々の仕事に全力を尽くすことを大切にしましょう。それが評価されることによって、自然と職長のチャンスも近づくと思います。また、普段の生活でも周囲に気を配り、人に迷惑をかけないように心がけること。社会人としての基本をしっかりと守ることで、周囲の信頼を得られます。加えて、細かい知識や材料についてもしっかり学び、常に意識して覚えること。焦らず着実に経験を積むことで、道は開けると信じています。

現場を取り仕切る職長たちは、プロジェクトの成功に欠かせない存在。しかし、その道のりには多くの苦勞が伴います。今回は、現場のリーダーとしての責任感ややりがいを感じる瞬間について、ベテラン職長2名にお話を伺いました。



職長を務める現場での工夫

効率的な作業のための段取り

皆さんの仕事が円滑に進むよう、段取りを整えています。まずは取り組む現場の下見。作業環境や設備を確認することで、潜在的な問題を事前に解消。また、必要な材料や道具が揃っているか、作業スペースが安全かを確認し、効率的に作業ができる環境を整えるようにしています。



新人職長時代の苦労

厳しい工期の中、多様な業務をこなすこと

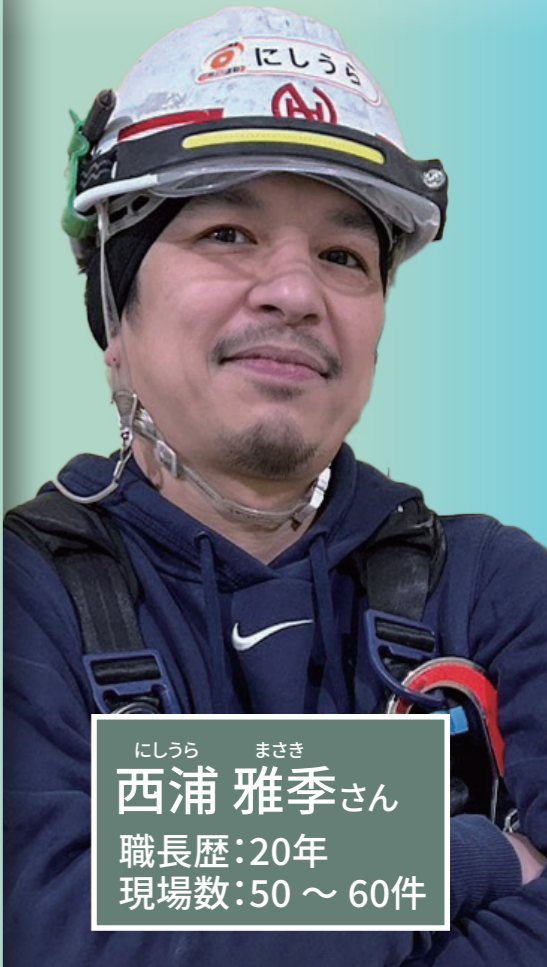
職長は現場を任されているため、自らの業務だけでなく、スタッフの仕事状況を常に把握して各人の業務にも配慮する必要があります。初めの頃は特に苦労しました。材料の手配や搬入計画が十分に整っていなかったため、作業がスムーズに進まないこともしばしば……。さらに、人手不足の際にはどう対処するかが課題でしたが、工期が厳しい中、残業を通じて何とか乗り越えることができました。「終わらせなければならない」という強い責任感を持って、率いていくことが大切だと思います。



職長のやりがい

頑張る姿と終わったときの達成感

達成時には「やっと終わった」という安堵感と共に「大変だったけど、やって良かったな」という満足感が湧いてきます。現在取り組んでいる病院内の壁と天井のボード張りの現場は、工期が1年近くと長く、特に年末は人手不足が影響し、非常に大変でした。しかし、2025年3月頃には完了見込み。仲間たちが頑張っている姿を見ているとやりがいを感じ、今までにない達成感を味わうことができそうです。



にしうら まさき
西浦 雅季さん
職長歴: 20年
現場数: 50 ~ 60件

職長を目指す後輩へ
応援メッセージ

未来の職長を応援します!

ボードの収まりや図面の理解など、基礎的なことが大前提です。最初から完璧にできるとは限りませんが、経験を積むことで徐々に成長できると思います。「やりたい」という気持ちや、その意志を積極的に表現することが重要。まずは挑戦してみることで、学びの機会が生まれます。様々な職長の異なるスタイルやアプローチがあるため、参考にしながら自分自身の成長に繋げてほしいと思います!